

発表者指名：井上登紀子（京都大学）

タイトル：スリランカ内戦後のムスリム国内避難民についての研究—女性の視点から考察する国内避難民の社会変化

本発表では、内戦により国内避難民となったムスリムのコミュニティの問題を取り上げ、スリランカにおけるムスリムの歴史と内戦時の強制退去の背景となる政治的状況を整理し、内戦後の IDPs 問題において北部ムスリムが直面している課題と今後の研究の展望を示した。ムスリム IDPs に関する先行研究では、彼らの帰還に焦点があてられることが多いが、本研究では、特にムスリムのアイデンティティに関わるダウリの問題に焦点を当て、長期化した避難生活を経て現実的には帰還が困難な状況にあるムスリム IDPs が、どのように新たな土地での生活に対処しているかを明らかにすることを目的とする。発表後には、有益なコメントを数多くいただいた。まず、本研究で対象とする「北部ムスリム」をいかに特徴づけられるかについて、ご指摘いただいた。また、ダウリに焦点を当てるに際し、経済的側面やイスラームの慣習との関係について考察することの重要性についてご指摘いただいた。